

学区	現在	変更案	備考
東岐波	東岐波全区	東岐波全区	
西岐波	西岐波全区、常盤24区から39区まで、 上宇部10の2区(15班、16班、17班に限る)	案1 西岐波・常盤全区	上宇部の一部除く (班のみは廃止)
		案2 西岐波全区	
川上	川上全区	川上全区	
常盤	常盤1-1区から2-8区まで、恩田・岬全区、 琴芝1区から1-10区まで	案1 恩田・岬全区、 琴芝1区から1-10区まで 常盤1-1区から2-8区まで	琴芝1～1-10区は 恩田小に編入
		案2 恩田・岬全区 琴芝1区から1-10区まで 常盤全区	
		案3 恩田・常盤全区 琴芝1区から1-10区	
神原	神原・見初全区	案1 神原・見初・琴芝全区(琴芝1 区から1-10区まで除く)	神原・見初・琴芝 は統合を前提
		案2 神原・琴芝全区(琴芝1区から 1-10区まで除く)	見初は岬と統合前 提(統合後の見初 は常盤中へ)
		案3 神原・岬・見初・琴芝全区(琴 芝1区から1-10区まで除く)	見初は岬と統合前 提
(仮) 見初	新設	案 岬(恩田7-1区から7-3区13 区・5-1区含む)見初・神原全 区	見初は神原と岬小 に 分離することを前 提
上宇部	上宇部全区(10-2区のうち15～17班除く) 琴芝3区から60区まで	案1 上宇部全区	
		案2 上宇部・琴芝全区(琴芝1区 から1-10区を除く)	
桃山	新川・小羽山全区、 鶺鴒の島14-1区、14-2区、57-1から57-4区まで	案1 新川・小羽山・鶺鴒の島全区	鶺鴒の島は新川小と 統合を前提
		案2 新川・小羽山全区	鶺鴒の島は藤山小と 統合を前提
藤山	藤山全区、 鶺鴒の島41区から56区まで及び58区から64区まで	案1 藤山全区	鶺鴒の島は新川小と 統合を前提
		案2 藤山・鶺鴒の島全区	鶺鴒の島は藤山小と 統合を前提
厚南	厚南・西宇部全区、厚東14区(5班に限る)	案1 厚南・西宇部全区	班による 分離は廃止
		案2 厚南・西宇部全区及び山陽自 動車道から南側の厚東地区	
黒石	黒石・原全区	黒石・原全区	
厚東川	厚東全区(14区のうち5班を除く)・二俣瀬・小野全 区	案1 厚東・二俣瀬・小野全区	班による 分離は廃止
		案2 厚東(山陽自動車道から南側の 厚東地区を除く)・二俣瀬・小野 全区	
楠	大字東吉部、大字西吉部、 大字東万倉、大字西万倉 大字矢橋、大字今富、大字芦河内 大字奥万倉、大字船木	大字東吉部、大字西吉部、 大字東万倉、大字西万倉 大字矢橋、大字今富、大字芦河内 大字奥万倉、大字船木	

①桃山中・藤山中シミュレーション

【案1】桃山中に鶺の島全区

桃山中

	令和10年度推計			
	1年	2年	3年	計
生徒数	126	143	131	400
学級数	4	5	4	13

藤山中

	令和10年度推計			
	1年	2年	3年	計
生徒数	91	72	86	249
学級数	3	3	3	9

【案2】藤山中に鶺の島全区

桃山中

	令和10年度推計			
	1年	2年	3年	計
生徒数	106	124	113	343
学級数	4	4	4	12

藤山中

	令和10年度推計			
	1年	2年	3年	計
生徒数	111	91	104	306
学級数	4	3	3	10

《参考》令和4年度の学級数：桃山中7学級、藤山中12学級

②厚南中・厚東川中シミュレーション

【案1】厚南中は厚南・西宇部全区、厚東川中は厚東・二俣瀬・小野全区

厚南中

	令和10年度推計			
	1年	2年	3年	合計
生徒数	141	146	136	423
学級数	5	5	4	14

厚東川中

	令和10年度推計			
	1年	2年	3年	計
生徒数	24	7	22	53
学級数	1	1	1	3

【案2】厚南中に山陽自動車道から南側の厚東地区を含める

厚南中

	令和10年度推計			
	1年	2年	3年	合計
生徒数	143	146	141	430
学級数	5	5	5	15

厚東川中

	令和10年度推計			
	1年	2年	3年	計
生徒数	22	7	17	46
学級数	1	1	1	3

1 対象校 : 鶺ノ島小・新川小・藤山小

	令和10年度推計													
	児童生徒数							学級数						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
鶺ノ島小	11	12	11	18	19	12	83	1	1	1	1	1	1	6
新川小	55	47	50	60	63	63	338	2	2	2	2	2	2	12
藤山小	65	81	64	75	75	79	439	2	3	2	3	3	3	16

2 適正化後の児童数・学級数

◆案1

対象校 : 鶺ノ島小・新川小

学校の位置 : 現新川小

	令和10年度推計						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	66	59	61	78	82	75	421
学級数	2	2	2	3	3	3	15

◆案2

対象校 : 鶺ノ島小・藤山小

学校の位置 : 現藤山小

	令和10年度推計						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	76	93	75	93	94	91	522
学級数	3	3	3	3	3	3	18

◆案2-1 (施設一体型小中一貫校)

対象校 : 鶺ノ島小・藤山小・藤山中

学校の位置 : 現藤山小・藤山中

	令和10年度推計												
	小学校							中学校				学級数計	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	合計		
児童・生徒数	76	93	75	93	94	91	522	111	91	104	306		
学級数	3	3	3	3	3	3	18	3	3	3	9	27	

学校名	R10年度 普通教室数 (学級数)	①R4年度 普通教室数 (学級数)	②R4年度 (特活学習 室等)	③R4年度 (多目的教 室)	④R4年度 (少数教 室)	⑤R4年度 (生活科 室)	①～⑤	⑥R4年度 (学童保 育室)	⑦増設対 応教室 数	①～⑦	備考
恩田小		23	2.5	2.5		1	29	1	2	32	増設；特活（児童会室，外国語教室）
岬小		6	3	1	1	1	12		2	14	増設；多目的スペース改造（2室分）
見初小		6	2	0.5	1	0.5	10		2	12	増設；特活（児童会室，外国語教室） ※神原小統合時、特別支援教室が3室程度必 増設；特活（児童会室，PTA会議室，地域交 流室）、教育相談室、会議室
琴芝小		12		2	1		15	1	5	21	増設；特活（児童会室，外国語教室）、コン ピュータ室
神原小		12	2				14		3	17	
新川小		16	1	1	1	1	20			20	
鵜ノ島小		6	1	2	1	2	12		2	14	増設；特活（児童会室，外国語教室）
藤山小		18	0.5	2	1	1	22.5	1	2	25.5	増設；特活（外国語教室）、パソコン教室
厚東小		6					6			6	
二俣瀬小		3	2			1	6		2	8	増設；特活（外国語教室）、会議室
小野小		3	3				6		2	8	増設；視聴覚室、会議室
西宇部小		12		5			17	1	2	20	増設；特活（児童会室，外国語教室）
吉部小		3		1.5		1	5.5		1	6.5	増設；視聴覚室
万倉小		3	2	2		1	8			8	
船木小		6		1.5	1	1	9.5		3	12.5	増設；特活（外国語教室×2）、視聴覚室
西岐波中		13	5	1			19		5	24	増設；特活（生徒会室，PTA室）、視聴覚 室、コンピュータ室×2
常盤中		17		10			27		3	30	増設；特活（生徒会室，外国語教室）、視聴 覚室
神原中		7		4			11		2	13	増設；視聴覚室、コンピュータ室
桃山中		11	2	2			15		4	19	増設；特活（生徒会室，外国語教室）、相談 室、コンピュータ室
藤山中		11	1	3.5	1		16.5		2	18.5	増設；視聴覚室、コンピュータ室
厚東川中		3					3		1	4	増設；コンピュータ室
楠中		3		3.5			6.5		3	9.5	増設；特活（外国語教室）、コンピュータ室 ×2

- ・特別支援教室と通級教室は除く
- ・概ね8m四方の教室を対象とする
- ・上記②～⑤は使用実態を学校に毎年4月～5月に確認
- ・上記⑥は学童保育（学校と共用）を退去してもらう話なので、学校及び保育幼稚園課と要協議
- ・上記⑦は概ね8m四方の教室としたが、普通教室に変更が可能か否かは教育施設課では判断出来ない
- ・上記⑦は教職員に教材室・資料室・郷土資料室・倉庫が増設対応の向き・不向きを確認し、教育施設課が増設対応教室には不向きと判断し、対象外とした

施設の状況（令和4年度）

資料 5

小学校名（建築年）				経過年数	中学校名（建築年）			
藤山① (S35~39)				築 62 年 ↵ 築 57 年				
神原 (S38~42)		鶯ノ島 (S38~41)			桃山① (S36~40)	厚南① (S36~38)		
恩田① (S41~43)	新川① (S43.44)	原① (S43)		築 56 年 ↵ 築 47 年	常盤① (S44.45)			
藤山② (S49.53.55)					西岐波① (S47~49)	東岐波① (S48.50)		
上宇部① (S51~54)	常盤 (S52.53.55)	原② (S53)	東岐波① (S52)	築 46 年 ↵ 築 37 年	楠 (S53)	藤山① (S53)	厚南② (S51.57)	
小羽山 (S55~59)					西宇部① (S55~56)	厚東 (S54)		
恩田② (S59.60)	見初 (S57・58)	上宇部② (S58~59)	万倉 (S57)		常盤② (S58.59)	東岐波② (S57)		
東岐波② (S60~62)				築 36 年 ↵ 築 27 年	吉部 (S59)			
川上① (S63~H元)		船木 (S63)			藤山② (S61.62)			
西宇部② (H元)		琴芝 (H4~7)			東岐波③ (H4)	神原 (H5.7.8)	桃山② (H3.4)	
厚南 (H10~12)	黒石 (H6)	二俣瀬 (H10~11)	小野 (H9)	築 26 年 ↵ 築 17 年	黒石 (H3)			
					川上 (H元.2)			
				築 16 年 ↵ 築 7 年	上宇部 (H14~17)			
川上② (H17)		西岐波 (H18~20)						
				築 6 年 ↵	厚東川 (H23.24)			
					新川② (H27)			
				築 6 年 ↵	岬 (H30)			

桃山・藤山中ブロック
案2

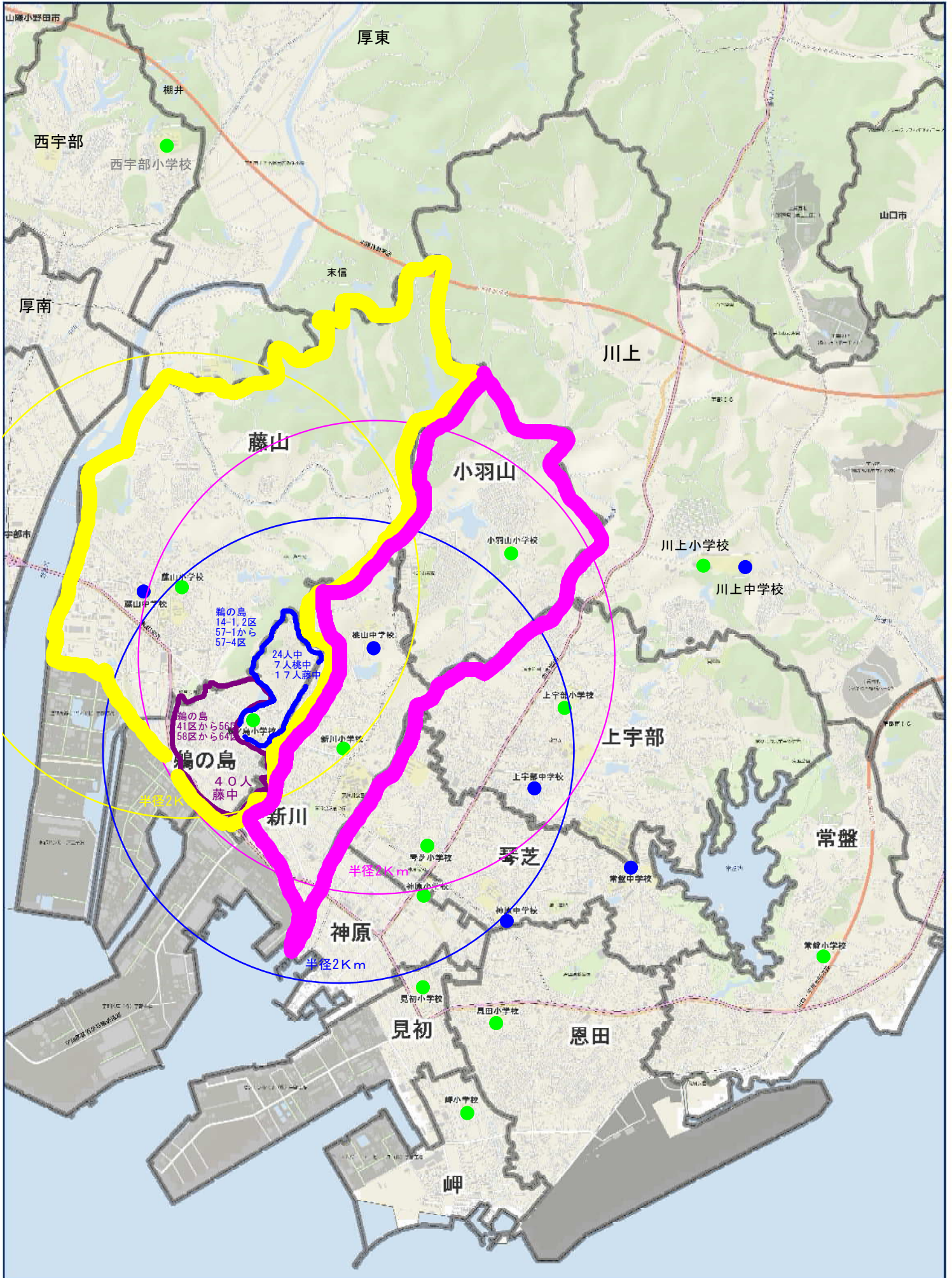
1: 図面は、資料6-2の資料を基に作成されたもので、実際の状況と異なる場合があります。
2: 図面は、資料6-2の資料を基に作成されたもので、実際の状況と異なる場合があります。
3: 図面は、資料6-2の資料を基に作成されたもので、実際の状況と異なる場合があります。

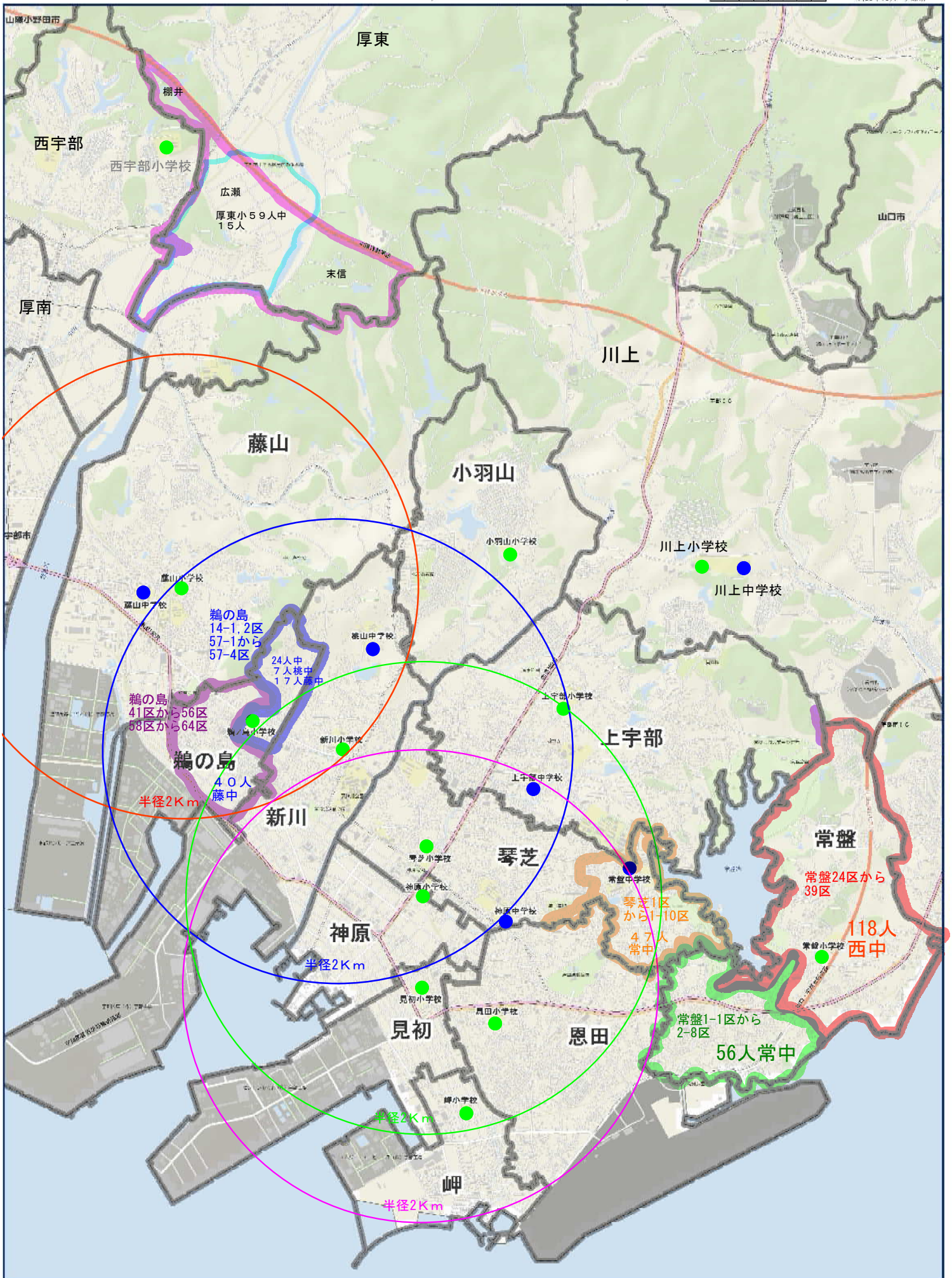


1:14,000

資料6-2

0 250 500 1,000 m
令和3年10月 宇部市





厚南・厚東川中ブロック
(案1. 案2)

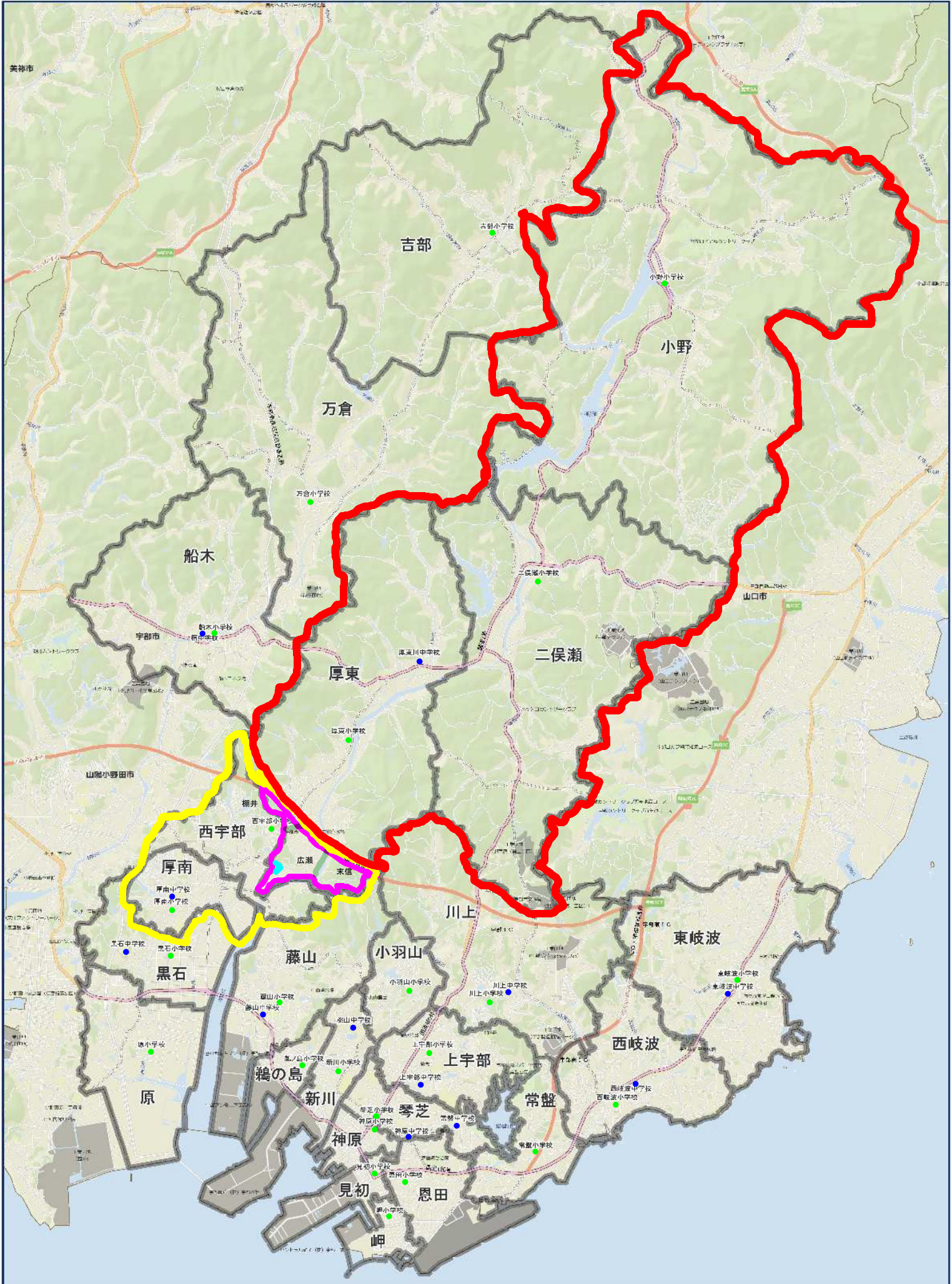
6. 5507 5508
注：この図表及び資料目的に使用するため、図面はおぼろしい場合があります。
※詳細は、お問い合わせください。



1:35,000

資料6-4

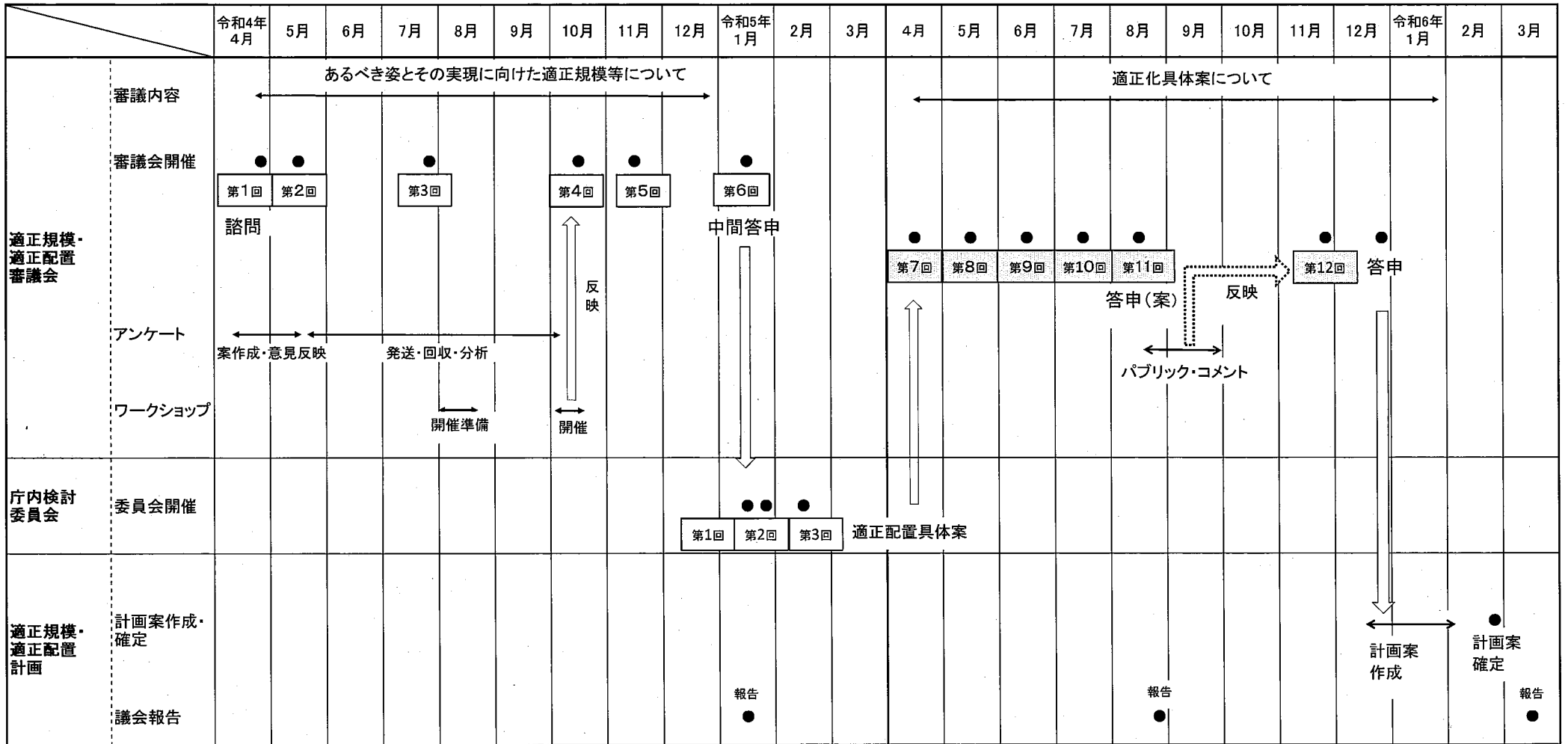
令和4年2月 宇部市



宇部市立小中学校適正規模・適正配置審議会委員名簿

区分	推薦母体・公職等	委員名
学識経験者	山口大学教育学部 学部長	鷹岡 亮
	山口大学大学院 教育学研究科教授	松田 靖
	宇部フロンティア大学 短期大学部教授	伊藤 一統
小中学校児童生徒 の保護者代表	市P T A連合会	松尾 淳一
		才木 祥子
小中学校の教職員等	中学校校長会	松岡 千鶴
	小学校校長会	富田 紀子
地域代表	市コミュニティ推進地区 連絡協議会	上原 久幸
	市自治会連合会	井上 博己
公募委員	未就学児の保護者	井上 政志
		福永 久美子

宇部市立小中学校適正規模・適正配置計画策定スケジュール



学区変更のメリット・デメリット

◆桃山中・藤山中ブロック

学区	案	メリット	デメリット
桃山中 藤山中	【案1】 桃山中に 鶉の島 全区	・2中とも通学距離はほとんど変わらないが、小学校の統合を考慮した場合、新川小学校との統合の方が通学距離が短い。	・現在、鶉ノ島小は藤山中と連携性をもっている。 ・選択制により鶉ノ島小のほとんどの児童は藤山中に進学している。
	【案2】 藤山中に 鶉の島 全区	・現在の小中連携の状況で、鶉ノ島小は藤山中と連携性をもっている。 ・鶉の島地区は2中とも許容範囲(学校規模・通学距離)と考えられるが、選択制により鶉ノ島小のほとんどの児童は藤山中に進学している。 ・藤山小・鶉ノ島小ともに学校施設の老朽化が進んでおり、計画期間内に施設一体型の小中一貫校を整備できる可能性がある。	・鶉ノ島小が藤山小と統合した場合、新川小と統合するより通学距離が長くなる。

◆厚南中・厚東川中ブロック

学区	案	メリット	デメリット
厚南中 厚東川中	【案1】 厚南中は 厚南・西 宇部全区 厚東川中 は、厚 東・二俣 瀬・小野 全区	・厚東地域は学童を含めた地域による教育支援が充実しており、地域のつながりも強い。	・厚東小に通学している山陽自動車道から南側に居住する子どもの小中学校への登校の負担やバス代等の負担がある。 ・将来的に、当該地域付近に住宅開発などが進み新たに居住してくる住民への理解。
	【案2】 厚南中に 山陽自動 車道から 南側の厚 東地区を 含める。	・厚東小に通学している山陽自動車道から南側に居住する子どもの小中学校への登校の負担が軽減される。	・厚東小児童の約3割が削減されることは、北部地域の学校の存続に影響。